

背景と地域展開への動機

課題認識：少子化の進行により、学校単位での部活動の存続が困難に

目標：生徒が継続したい活動や、やりたい部活動を保障するために吹奏楽部を地域クラブ活動のモデルとして地域展開を推進

地域目標：専門的な指導体制の確立と活動機会の拡充を目指し、「地域の子どもは地域で育てる」「音楽の町・竹田」を実現したいという市民の思いが後押し

持続可能な運営体制

実施主体と連携

- 教育委員会（学校教育課が主管）が全体を統括

- 首長部局（企画情報課、財政課）が財源確保や予算措置で支援する連携体制を構築

運営の要：コーディネーター事務局の設置

- 部活動地域移行コーディネーター（元吹奏楽顧問）が、円滑な運営を支える調整役担う

- 会計年度職員からなる事務局が、パソコン入力、活動計画作成、スクールバス運行計画、予約などの事務作業をサポートし、コーディネーターは運営に専念可能

専門性の高い指導体制1

- 指導者は、竹田市文化連盟会長、プロのフルート奏者、中学校音楽教員、地域の楽団演奏家など、多様な専門性を持つ人材で構成

- 運営補助者24名を含む、多層的な支援体制を構築

課題の克服と取り組み

課題

指導者確保と質の維持

広域生徒の移動負担

学校施設の利用

取り組み

人材バンクではなく、地域の団体との直接対話で指導者を確保。質の向上のため年2回の指導者研修を実施

スクールバスを活用し、広域的な市内生徒の移動負担を軽減
1日あたり約80人の生徒が移動可能

活動拠点（竹田中学校音楽室）の鍵を指導者代表が預かり、施設利用をスムーズ化

* 具体的成果 *

生徒の技術・意欲の向上

- 専門的な指導を継続的に受けた結果、生徒の演奏技術が向上。コンクール成績は令和5年度の銅賞から昨年度は銀賞へと向上した
- 竹田高校・三重総合高校、ジュニアオーケストラとの学校の枠を超えた合同練習・コンサートを通じて、交流機会が増加し、意欲向上につながっている
- 瀧廉太郎を偲ぶ音楽祭など、地域のイベントに積極参加し、モチベーション向上と地域貢献を両立

教員の負担軽減

- 地域クラブ指導員との協力にて、教員の土曜日の指導が月あたり1~2日減少
- 兼職兼業の教員の指導時間が大幅に減少（例年280時間に対し、実績74時間）

費用負担の軽減

- 市が指導者謝金や移送費用を補助し、保護者の費用負担を抑制。休日の保護者負担上限を2,000円と設定することが適切か検討中

直面する主要な課題

財源の持続可能性

- 指導者謝金や移送費用における市の財政負担が大きく、企業版ふるさと納税や基金の活用など、新たな財源確保計画の策定が喫緊の課題

指導者の継続的確保

- 若手指導者の育成や新規確保が長期的な課題

活動場所の拡充

- より本格的な演奏環境を提供するため、市の音楽ホール「グランツ TAKETA」の使用について財団と協議中

保護者からの懸念

- 土曜日の指導者交代による指導の統一性への不安や、送迎負担軽減策、練習場所の分散開催など、移動手段に関する要望が依然として多い

実践で得られた教訓

密な連携と意見交換

- 学校、保護者、地域団体など多様な関係者との連携を継続し、保護者意見を定期的に吸い上げる姿勢が信頼構築につながる

財源確保の早期計画

- 補助金だけでなく複数の収入源を検討し、具体的な資金調達計画を早期に策定することが持続可能な運営の要となる

トライ＆エラーの姿勢

- 地域の特性やニーズに合わせて柔軟に計画を見直し、常に改善を図る姿勢が不可欠

実践で得られた教訓

・**密な連携と意見交換**：学校、保護者、地域団体など多様な関係者との連携を継続し、保護者意見を定期的に吸い上げる姿勢が信頼構築につながる

・**財源確保の早期計画**：補助金だけでなく複数の収入源を検討し、具体的な資金調達計画を早期に策定することが持続可能な運営の要となる

・**トライ＆エラーの姿勢**：地域の特性やニーズに合わせて柔軟に計画を見直し、常に改善を図る姿勢が不可欠